

Ⅱ 教育課程の大綱

1 令和7年度 学校経営の方針

1. 教育目標

考える子 思いやる子 やり抜く子

2. 基本方針

地域とかかわり、なりたい自分（目標）を目指して、チャレンジする子どもの育成

保護者や地域と連携しつつ、教育目標『考える子 思いやる子 やり抜く子』の実現のため、『郷土愛』、『かかわる力』、『みつめる力』、『やり抜く力』、『夢おこす力』+『ま～るい心』の5つの視点から活動を展開する。

3. 目指す子どもの姿（重点目標） ※「」は子どものつぶやきや気持ち

○知…しっかり読み(INPUT), じっくり考え(THINK), 進んで表現する(OUTPUT)子	「やりたい・やる・できた」
○徳…あいさつややさしい言葉を交わし合い、相手を思いやる子	「優しくされた・認められた・役立った喜び」
○体…自身の健康に関心を持ち、めあてをもって運動をやり抜く子	「やりとげた・伸びた喜び」

4. 目指す学校

「ありがとう」と思いやりあふれる学校

- ① お互いを尊重し合い、向上し合えるチームになる！
- ② 子どもや保護者、地域の方々、同僚の思いに寄り添い、最善を尽くす！
- ③ 子どもたち同士もお互いに「ありがとう」や挨拶が言える！

そのために・・・

大人も子どもも

1 互いに「ありがとう」を伝える！

2 じぶんがされてうれしいことをしてやる！自分が言われてうれしいことを言ってやる！



【心のイメージ】

5. 目標達成のための方法 ※「県の学校教育の重点」も参照

(1) <基盤> 安心・安全な学校づくり

- ・ 落ち着きと潤いがあり、整っていて余計な刺激を与えない教育環境の構築。
 - ・ 早期発見・即時対応の職員体制の強化、及び危機管理マニュアルの周知徹底。
 - ・ 事故防止の徹底と命を守る学習の充実。(危険予知, 危険回避能力の育成)
 - ・ いじめ, 不登校への対応…未然防止, 早期発見, 即時対応への組織的な取組。(校内委員会)
「報告・連絡・相談」児童や保護者の気になることについて、迅速に管理職に報告する。
「先に伝える」児童について気になること・保護者に伝えなければならないことは、保護者からの連絡よりも先に伝える。(小さいうちに伝えることで信頼が得られる。)
- 「道徳教育・人権、同和教育・特別活動」

『考え議論する道徳』の実践と仲間との日常活動や異学年交流を通して、他者への理解を深め、人間関係をよりよく形成できるよう児童の主体性ある活動を推進する。

(2) <組織> 全校体制による取組と同僚性の向上

- ・ チームとしての共通認識と共通実践(吉北スタンダード)。
- ・ 職員間のコミュニケーションを活性化し、全教職員で子どもを育てる意識を共有。
- ・ 全職員が共通認識と同一歩調で特別な支援を要する児童に対応。

(3) <知> 基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成

- ・ 学習ルールの共通理解と徹底、学級経営力の向上への取組。
- ・ 児童が「レベルアップ」を実感できる指導への取組。
- ・ 「INPUT, THINK, OUTPUT」を意識した読解力育成を目指す授業づくりの取組の習慣化。
- ・ ユニバーサルデザインの手法を取り入れた子どもたちへの支援・対応。
- ・ ICTを積極的に活用した授業づくりを行う。
- ・ 「教科と生活科・総合は両輪」教科で付けた力を生かし、生きて働く力を付ける。

(4) <徳> 人間関係を深める

- ・ 明るいあいさつ優しい言葉によるコミュニケーションの日常化で、温かい人間関係を構築。
※ 「おはよう」「さようなら」、来客への「こんにちは」は、(形式的でも)徹底。
- ・ 多様性を受け入れつつ、集団として共によりよく成長しようとする意識を醸成。
- ・ 日常的な観察・言葉掛け・定期調査で異変を察知し、早期かつ組織的に対応。

(5) <体> 基礎体力の向上と生活習慣の改善

- ・ 学習に耐えられる体力の育成。健康的な生活から礼節を育成。
- ・ 意図的な運動の機会の増加。
- ・ 早寝を中心とした生活習慣改善への意識付けと方途を啓発。

(6) <研修> リーディングスキルに着目した指導力の向上

- ・ リーディングスキルに着目した授業改善への取組。
- ・ 取組の成果と課題の共有・蓄積。

(7) <連携> 保護者・地域と共に子どものよさや成長を実感・共有

- ・ 子どものよさに着目した保護者との連携を大切に、説明責任を果たす。
- ・ 12年間を見通した学校間連携(幼保小連携, 小中連携, 小小連携)を推進。
- ・ 子どものがんばりをタイムリーに発信。(学校・学年・学級だよりや学校ホームページ等)
- ・ 「ふるさと燕」を大切にする。
(保護者・来校者への誠意ある対応, 地域の各種関係団体等との連携)

6. 目指す職員像

(1) 参画・協働する職員を目指す

- ・ 「報告・連絡・相談」と、チームプレー「チーム吉北」を大切にする。
※ 特に生徒指導上の問題への対応は、個で対応せず、組織的に対応。
- ・ 問題や苦情は学校を改善するチャンスと捉える。
- ・ 改善提案ができる職員を目指す。

(2) 授業のプロを目指す

- ・ 「なぜできない？」でなく、「どうやったらできるか？」と、指導の在り方を問い直し続ける。
(できない理由を探さない。知恵を出し合い、できるようになるための改善策を工夫する。)

(3) 子どもと真正面から向き合う職員を目指す

- ・ 子どもの背景や保護者の心情を理解し、一人一人に寄り添って認め励ます。
(目の前の事象のみに囚われず、そうなった原因・背景を探り、学校ができることを考える。)

(4) 常に学び続ける職員を目指す

- ・ 誤りは、その場ですぐ直す。(誤りを認める姿を見せるのも教育。)
- ・ 理想を求める気持ちを大切にする。(無制限ではない。)

7. 多忙化対策

・ メリハリのある仕事への取組

- 原則 19時00 分までに退勤する。
- 「時間外勤務 月 45 時間以内、年 360 時間以内」を目指すことが子どもたちへのよりよい指導につながることを自覚し、自分の働き方を見つめ、見直す。

(以下は例外とする。)

- ✧ 長期休業前後の 1 週間
 - ✧ 運動会・学習発表会前の 1 週間
 - ✧ 修学旅行・自然教室前の 1 週間(引率者のみ)
 - ✧ 公開授業前の 1 週間(授業者のみ)
 - ✧ 保護者や地域住民等への対応で勤務時間外の場合(対応者のみ)
 - ✧ 生徒指導対応の場合(関係者のみ、電話対応も含む)
 - ✧ 非常災害・重大事態等の場合
 - ✧ 共同実施の前後(事務職員のみ)
 - ✧ 対外的な研修・出張に伴う準備の場合(該当者のみ)。
- ※ 困難な状況の時、HELP が欲しい時は、必ず管理職に相談する。

8. 非違行為根絶

・ 「子どもに説明できないことは、絶対にしない。」

- この気持ちを持ち、定期的に職員研修を行う。非違行為を絶対にしない、させない教職員集団になる。
- ・ やるからには楽しんでやる。ただし、心身の健康が第一である。
(一人で抱え込んだり、長時間取り組んだりすることが評価される時代ではない。)
- ・ 明るく、元気に、前向きに。教師こそ、「心をま〜るく」
(自分や周囲にも良い影響を与える。ただし、自分の健康や家庭に不安があるとツライ。
その場合は一人で悩まず、早期に相談し、対策を考える。)